

当院を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	Radiomics (CT や MRI などの医用画像のコンピュータ解析) による肝細胞癌分子標的薬治療効果の予測に関する多機関共同後ろ向き観察研究
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇 学
担当科等	放射線科
研究責任者	(職名) 助教 (氏名) 成田晶子
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	浜松医科大学 市川新太郎
研究の意義・目的	2018年に肝細胞癌に対する分子標的薬治療が承認されました。分子標的薬は有効な治療選択肢のひとつですが、高価な薬剤であり、治療効果が期待できる患者さんをあらかじめ予測することができれば、医療経済上とても有益です。現在のところ治療効果を予測する手法は報告されていませんが、Radiomics という解析はその可能性を有していると考えられます。Radiomics はコンピュータにより CT や MRI などの医用画像で発見された病変の画像特徴量を抽出し、解析する手法です。日常臨床で行われる検査の画像を使用するため、特別な検査を追加する必要はありません。日常臨床では腫瘍のサイズや濃度/信号強度、造影効果の有無など視覚的評価を基に診断を行っていますが、Radiomics ではコンピュータを用いてこれら視覚的に認識可能な特徴量だけでなく、人間の目では観察できないような高次元の特徴量まで非常に多くの項目を数値化して抽出することができます。これまで肝細胞癌の悪性度や治療効果予測などへの応用が報告されており、分子標的薬の治療効果予測にも応用できる可能性があります。現在のところ、分子標的薬の治療効果判定予測に関する検討は発表されていません。本研究の目的は分子標的薬治療前の画像データを Radiomics によって解析し、分子標的薬治療に良好な反応を示す病変に見られる特徴量を抽出して、分子標的薬の治療効果が期待できる患者さんを予測することです。
対象となる患者さん	2018年～2021年までの期間に当院にて肝細胞癌に対して分子標的薬(レンパチニブ)治療を受け、かつ治療前後に画像検査が行われた20歳以上の方。
研究の方法	肝細胞癌に対して分子標的薬(レンパチニブ)治療を受けた患者さんの画像

	<p>を Radiomics を用いて解析し、分子標的薬治療有効群と無効群の 2 群間で比較検討を行います。</p> <p>研究計画書及び研究の方法に関する資料を希望される方は下記の問い合わせ先までご連絡ください。</p>
研究期間	研究実施承認日 ~ 2024 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報	情報：診療情報(年齢、性別、既往歴、合併症、病歴、治療歴、身長、体重、血液検査結果等)、CT、MRI、肝細胞癌の病理学的診断結果等
外部への試料・情報の提供	提供先：浜松医科大学 放射線診断学講座 提供方法：匿名化した上で電子媒体にて郵送します
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023 年 3 月 31 日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	<p>愛知医科大学病院 放射線科 担当者：(職名)助教 (氏名)成田晶子 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311 (内線 22833)</p>